

タコクラゲ



水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

9

久保田信

させ、水面近くを群れて泳いでいる。8本の足のよつな突起が伸びていることからこの和名が付いた。

太陽がまぶしい季節になると、紀南地方の沿岸で決まって姿を現すのがタコクラゲだ。この時季は白浜水族館でも展示飼

育している。いま展示している個体はまだ小さく、直径数センチほど。一生懸命、半球状の傘をリズムミカルに拍動

△白浜水族館近くの海で捕獲されたタコクラゲ (水槽番号2002)

光合成で元気になるクラゲ

傘と突起の間にある小さな口が当たる部分で、口腕(こうわん)と呼んでいる。この口腕全体に無数の眼

傘と突起の間にある小さな口が当たる部分で、口腕(こうわん)と呼んでいる。この口腕全体に無数の眼

ポリプは数センチほどの大きさで、イソギンチャク

育している。

いま展示している個体はまだ小さく、直径数センチほど。一生懸命、半球状の傘をリズムミカルに拍動

に見えない小さな口が開いていて、海中の小さなプランクトンを吸い取るように食べている。

成熟すると直径10センチほどになる。子孫をつくつた後は溶け去り、冬が来る前に姿を消してしま

をごく小さくした姿をしている。自分の分身、いわゆるクローンをいくつも作り出して増殖する。

体全体が茶色をしているが、それは元気がいい証拠である。調子が悪くなると全体が白色になってしまう。その理由は、細胞内にすまわされている

褐虫藻が抜け出てしまつて地肌の色に戻るからである。こうなると、小さな口から取る栄養だけでは足りなくなり、死んでしまつことがある。

では、紀南地方にすんでいるタコクラゲは、ほかの季節はどこでどうやって生きているのだろうか? その答えは、親クラゲから生まれたポリプの姿で海底で生きている。

(京都大学准教授)

影響が強い地域に分布しており、県内では紀南地方にしかない。